

2022年5月29日

主の昇天の主日

菊地功大司教 メッセージ

御父のもとへと旅立たれる主を目の当たりにして、弟子たちは呆然と佇んでいました。使徒言行録は、その弟子たちに対して天使が、「ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか」と語りかけたと記します。天使の呼びかけは、ただ呆然と立ち尽くすのではなく、イエスが再び来られることを確信しながら、その日まで、与えられた使命を果たして生きよという、促しの言葉であります。

弟子たちは何をどのように促されていたのでしょうか。ルカ福音も使徒言行録もともに、聖霊による導きの約束と、「地の果てに至るまで、わたしの証人となる」というイエスの言葉を記します。すなわち弟子たちは、自分勝手に何かを語るのではなく、神の聖霊に満たされ導かれて、イエスの言葉と行いについて、世界中の人たちにあかしをする福音宣教者となるように促されているのです。

わたしたちは、自分勝手に好きなことを語る宣教者ではなく、聖霊に導かれて主イエスの言葉と行いを語る忠実な宣教者でありたいと思います。

2015年5月24日に回勅「ラウダート・シ」が発表されたことを受けて、毎年5月には、「ラウダート・シ週間」が設けられ、教皇が呼びかけた総合的エコロジーの視点から、わたしたちの共通の家である地球を守るための道を模索し、行動を決断するときとされています。

今年の「ラウダート・シ週間」は5月22日から29日までとされ、そのテーマは、「ともに耳を傾け、ともに歩もう」であります。「ともに」という呼びかけは、もちろんシノドスの道程を今ともに歩んでいるからに他なりません。教皇フランシスコは回勅に、「皆がともに暮らす家を保護するという切迫した課題は、人類家族全体を一つにし、持続可能で総合的な発展を追求するという関心を含んでいます」と記されました。残念ながら、この数ヶ月、わたしたちはこの共通の家を争いの場としてしまい、武力の行使は地球を

荒廃させ、さらには環境の中心にある賜物であるいのちを暴力的に奪い去ります。人類家族全体は、残念ながら一つにはなっておらず、共通の家に対する配慮は後回しにされています。

わたしたちはこの現実の中で、キリストの福音をあかしするものとして遣わされています。教会を導く聖霊は、わたしたちにこの現実の中で何をあかしするようにと導いておられるのでしょうか。

創世記には、神が人を創造されたときに、互いに助けるものとして共に生きるようにと、二人の人を創造していのちを与えられた事が記されています。わたしたちは互いに助け合うようにいのちを与えられました。いのちを守らず、他者への配慮を忘れた世界には、神の平和がありません。

回勅「ラウダート・シ」で教皇フランシスコは、神が創造されたものは、一つとして他者と関係なく勝手に存在するものではなく、すべてが密接につながっていることを指摘し、こう記しています。

「密接に絡み合う根本的な三つのかかわり、すなわち、神とのかかわり、隣人とのかかわり、大地とのかかわりによって、人間の生が成り立っていることを示唆しています。聖書によれば、いのちに関わるこれら三つのかかわりは、外面的にもわたしたちの内側でも、引き裂かれてしまいました。この断裂が罪です」(66)

福音を告げしらせるようにと遣わされているわたしたちには、この世界において、三つのかかわりが引き裂かれている状態を修復させる務めがあります。神が望まれる世界は、「創造主と人間と全被造界との関係」が修復され、調和が実現している世界であるはずです。